

今までのまとめ

t 検定による有意差判定について

総復習

番号：

氏名：

<用語のまとめ>

分散(variance)・・・  $s^2$ で表される(偏差の平方平均)

標準偏差(standard deviation)・・・  $s$ で表される(分散の平方根)

正規分布(normal distribution)・・・左右対称の釣鐘方の分布。

データが多いと正規分布の形になると考えられている。(だから、統計上の推計や検定が可能となる)

統計的には、5%未満の確率であれば「有意差がある」と判定する。

統計の証明のしかた

「背理法」という考え方

何かを証明するためには、その逆の仮説を提起し、その仮説を否定することで本来の仮説を証明する方法

- 1 : 「実験 A と実験 B との間に差がない」 (この仮説を"帰無仮説" という) とする。
- 2 : 「実験 A と実験 B との間に有意な差がある」 (この仮説を"対立仮説" という) かを確認する。
- 3 : 有意水準 5 % 以上の差がある 帰無仮説を棄却できる (帰無仮説は正しくない = 対立仮説が正しい)  
有意水準 5 % 以上の差がない 帰無仮説を棄却できない (帰無仮説は正しい = 対立仮説は正しくない)

<裏面あり>

<授業でわかったこと>

<理解できなかったこと>